



## マズローに6段階目があるの？



### A 「自己超越欲求」のことだね。

マズローは[欲求5段階説](#)が一般的で、これまではそれに沿って解説してきたよ。  
でも、晩年に6番目の欲求がある、としてさらに上部に位置する欲求を提唱したんだ。  
それを「自己超越欲求」と呼んでいるんだよ。

自己実現を果たした人の中には、社会や世界をより良いものにしたい、という「自己超越意識」を持つ段階に至る人がいる、とされているよ。  
自分一人だけのことではなくて、他者も大切にしよう、とする心が当てはまって、具体的に言うと、寛容、慈善、弱者救済などがあげられるよね。  
「忘己利他」という言葉で、日本にも古くからこの考え方があるよ。

この段階には、自己実現に至った人すべてがそうなるわけではなく、自己超越の段階に至る人は全人口の2%ぐらい、と言われているんだ。  
パッと見ると「[自己実現欲求](#)」とよく似ているけれど、この2つは根本的に違っているよ。  
「自己実現欲求」は「理想的な自分になりたい」という自利の気持ちで、自分へとベクトルが向いているけれど、「自己超越欲求」は他者や社会など、自分の外にあるものに対する貢献、利他の気持ちなんだね。

故ダイアナ妃やオードリー・ヘプバーンなど、海外のセレブや富豪が熱心に慈善活動をしたり大規模な寄付をしているのは「自己超越欲求」の発露とみることができるかもしれない。  
昨今のSDGsへの取り組みも、その一環と言えるかもしれないよ。  
個人が自分だけという枠を超えて、他者や組織、社会全体の利益を追求する欲求のことなんだね。

「[欠乏欲求](#)」を十分に満たした経験がある人は「欠乏欲求」に対してある程度耐性ができると言われているよ。  
なので「成長欲求」を実現するために「欠乏欲求」が満たされなくても活動できるようになるとも述べられている。  
具体的には、慈善家と呼ばれる人や、本当の宗教者といったところだろうね。

寄付や慈善というと、首をかしげてしまう人も多いと思う。  
彼や彼女たちは、社会的にも十分に承認されているし、仕事のうえでも自己実現は果たしているから、お金や名誉をその動機としている、とは考えにくいよね。  
5段階の欲求をすべてコンプリートした人は、最後の6段階目の「自己超越欲求」に突き動かされて、世界のことを憂えている、と考えるのがマズローの考えに合致しているように思うけれど、どうだろうか？

この「自己超越欲求」を支援という観点から見ると、個人が自分自身の役割を超えて働きかける欲求、と言えるかもしれない。

経験豊富なベテランが、経験の浅い人にいろいろと教える役割を担うということがあるよね。

自分の経験や知識を他者と共有して、経験の浅い人の成長と成功を助けることで「自己超越欲求」を満たしていった。

事業所の「社会的責任」を通して「自己超越欲求」を満たすことも可能だね。

社会的影響を目指している組織や、事業所が掲げる展望や理想像が、社会的価値を創造する方向に向けられると当てはまるよ。

スタッフがその展望や理想像、使命とするところに深く共鳴したなら、その達成に向けた支援を通して「自己超越欲求」を満たせる顔しれないね。

「マズローの欲求5段階説」は、マズローが提唱した人間性心理学という、人の持つ無限の可能性を基にした心理学がベースになっているよ。

いろいろと言われることもあるけれど、日本人にとっては、とても実践的だし、感覚的にも解りやすく、活用しやすい理論だよ。

科学がいくら進化しても、人間の欲求や心理は急に変化はしないので、時代を超えて使える考え方だとされているんだね。

マズローが提唱した「人間性心理学」は、人間の持つ成長への欲求や高次の価値を求める人間についての研究、だよ。

「人は[それぞれ個性的な存在](#)であり、思考も変化していく」ということを前提としている。

成長の途中にいる子どもたちと関わる私たちにとって、親しみやすい考え方なんじゃないだろうか。

## [《MENU》](#)

[《マズローの欲求5段階説の5つめは？](#)

[マズローの5段階説は分類できる？》](#)

2023-09-19 掲載